

# なんケア通信

第36回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和5年6月2日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：44名(地域包括支援センター2名、介護事業所関係者 25名、  
医療機関関係者 15名、福祉用具 2名)

## 演題

## 『医療依存度が高くても最後まで自分らしく過ごしたい』

1. 「地域医療構想と『終の棲家』」

御野場病院 理事長 皆河 崇志 先生

2. 「多職種連携 在宅療養を支えるナーシングホーム城南の取りくみ」

ナーシングホーム城南 大山 貴裕 氏

3. 「医心館のご紹介」

医心館地域連携部 築瀬 昭子 氏



今回は「医療依存度が高くても最後まで自分らしく過ごしたい」というテーマのもと、お話ししていただきました。

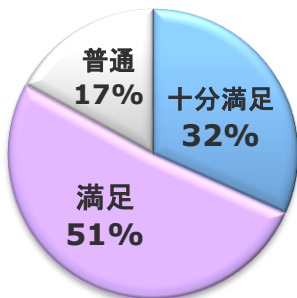
2025年には療養病床数が減少するため、医療必要度の高い方の長期療養の場を確保することが必要となってきます。最後まで自分らしく過ごせるよう、医療スタッフを24時間常駐し、自宅に近い環境で生活できるように工夫した施設の取りくみを教えていただきました。

貴重な講演ありがとうございました。

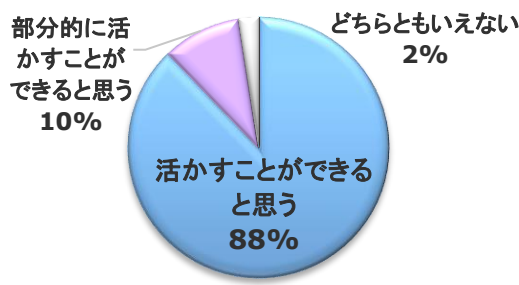
## アンケート結果

回収率:93.2%(アンケート配布:44名、回収:41名)

1. なんケアの会に参加して、いかがでしたか？



2. 今後、地域での活動に活かすことができそうですか？



## 会場の様子



## 皆様からのご意見・ご感想

施設の概要について説明いただき、参考になりました。今後相談を受けた際に、対象の方がいらっしゃればご紹介したいと思います。24時間看護師さんがいらっしゃるの、安心感につながるなあと思いました。

(地域包括支援センター)

人生の最後、「自分らしく」とは何か考えさせられました。ケアマネージャーは直接介助するわけではないので、ケアマネとしてできる事は何か考えたいと思う。

(介護支援事業所関係者)

医療依存度の高い方の相談の際、施設では受け入れが難しく、いつも悩み心苦しく思っていました。2人の発表で、自分らしく最後まで生きることの大切さ、その可能性を感じることができ、とても勉強になりました。

(介護支援事業所関係者)

医療依存度の高い方たちの在宅復帰は、今後増えてくることと思います。今回、医心館・ナーシングホームと特徴等、実際に聞くことができ、今後の施設調整の際の選択の1つとさせて頂きたいと思います。

(介護支援事業所関係者)

## 次回開催のお知らせ

開催日時：令和5年8月4日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」